

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No17(新著の紹介)

#11 田村知子著『カリキュラムマネジメントの理論と実践』

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

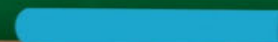
(ご紹介)



田村知子
たむら ともこ

大阪教育大学大学院・連合教職実践研究科・教授

九州大学大学院人間環境学府博士課程単位取得退学。
博士（教育学）。中村学園大学准教授・岐阜大学教職
大学院准教授等を経て2018年4月より現職。



新著の紹介



田村知子（2022）. カリキュラムマネジメントの理論と実践 日本標準

目次

- 序章 カリキュラムマネジメントの見方・考え方
 - 第1章 カリキュラムを疑う
 - 第2章 カリキュラム開発における教師の専門性
 - 第3章 カリキュラムマネジメントの概念
 - 第4章 カリキュラムマネジメント・モデルの意義と構造
 - 第5章 各学校の教育目標と教育課程編成の基本方針
 - 第6章 評価を核としたマネジメントサイクル
 - 第7章 カリキュラムマネジメントにおける評価の実践
 - 第8章 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 - 第9章 教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実施
 - 第10章 「主体的・対話的で深い学び」と教科等横断的な学びの実践
 - 第11章 社会に開かれた教育課程
 - 第12章 「社会に開かれた教育課程」への挑戦
 - 第13章 組織構造と学校文化
- ほか

それではご覧ください



目次

まえがき

序章 カリキュラムマネジメントの見方・考え方

【第Ⅰ部 カリキュラムマネジメントの思想】

第1章 カリキュラムを疑う

第2章 カリキュラム開発における教師の専門性

第3章 カリキュラムマネジメントの概念

第4章 カリキュラムマネジメント・モデルの意義と構造

【第Ⅱ部 カリキュラムマネジメントの実践】

第5章 各学校の教育目標と教育課程編成の基本方針—共創するヴィジョン

第6章 評価を核としたマネジメントサイクル

第7章 カリキュラムマネジメントにおける評価の実践

第8章 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

第9章 教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実施

第10章 主体的・対話的で深い学びと教科横断的な学びの実践 <事例>

第11章 社会に開かれた教育課程

第12章 「社会に開かれた教育課程」への挑戦 <事例>

第13章 組織構造と学校文化

第14章 教育行政の役割と学校からのアプローチ

第15章 カリキュラムマネジメントへの子どもの参加

第16章 GIGAスクール時代のカリキュラムマネジメント

終章 図と地の逆転

あとがき

参考文献

索引

カリマネあるある

「カリキュラムマネジメントをしなければならない」
という言葉が聞きますが..

本来は、

学習者に〇〇の力をつけたい

学習者に〇〇な学習経験をさせたい



〇〇な授業/行事をしたい



だから

◆ **カリキュラムマネジメントをしよう！** ◆

カリキュラムマネジメントは手段！自由に開発しよう！

表2-1：カリキュラムマネジメントが向かう先（石井英真2020を元に作成）

【形式的な経営技術論】

- ・ より包括的な学習成果の数値化
- ・ 行政の掲げる達成目標に向けて行う
- ・ PDCAサイクルの効率的遂行
- ・ 主体的従属
- ・ 説明責任（アカウンタビリティ）の論理
- ・ 教職の専門性の軽視

【実践共同体論】

- ・ 専門家が行う質的判断を信頼
- ・ めざす子ども像，ヴィジョンを協働構築
- ・ 価値追求の営み
- ・ 自律的な学校運営
- ・ 応答責任（レスポンスビリティ）の論理
- ・ 教職の専門性の尊重

本書の願い

カリキュラムマネジメントは、
教師の専門性と創造性をベースとした
開発的な営みなので、

「**楽しく**」取り組んでいただきたい

構成の特徴

筆者による教職大学院の授業
「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」の
カリキュラム・デザインに基づいている

カリキュラムマネジメント
の「見方・考え方」

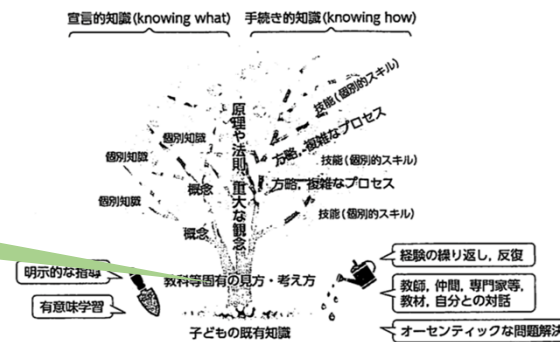
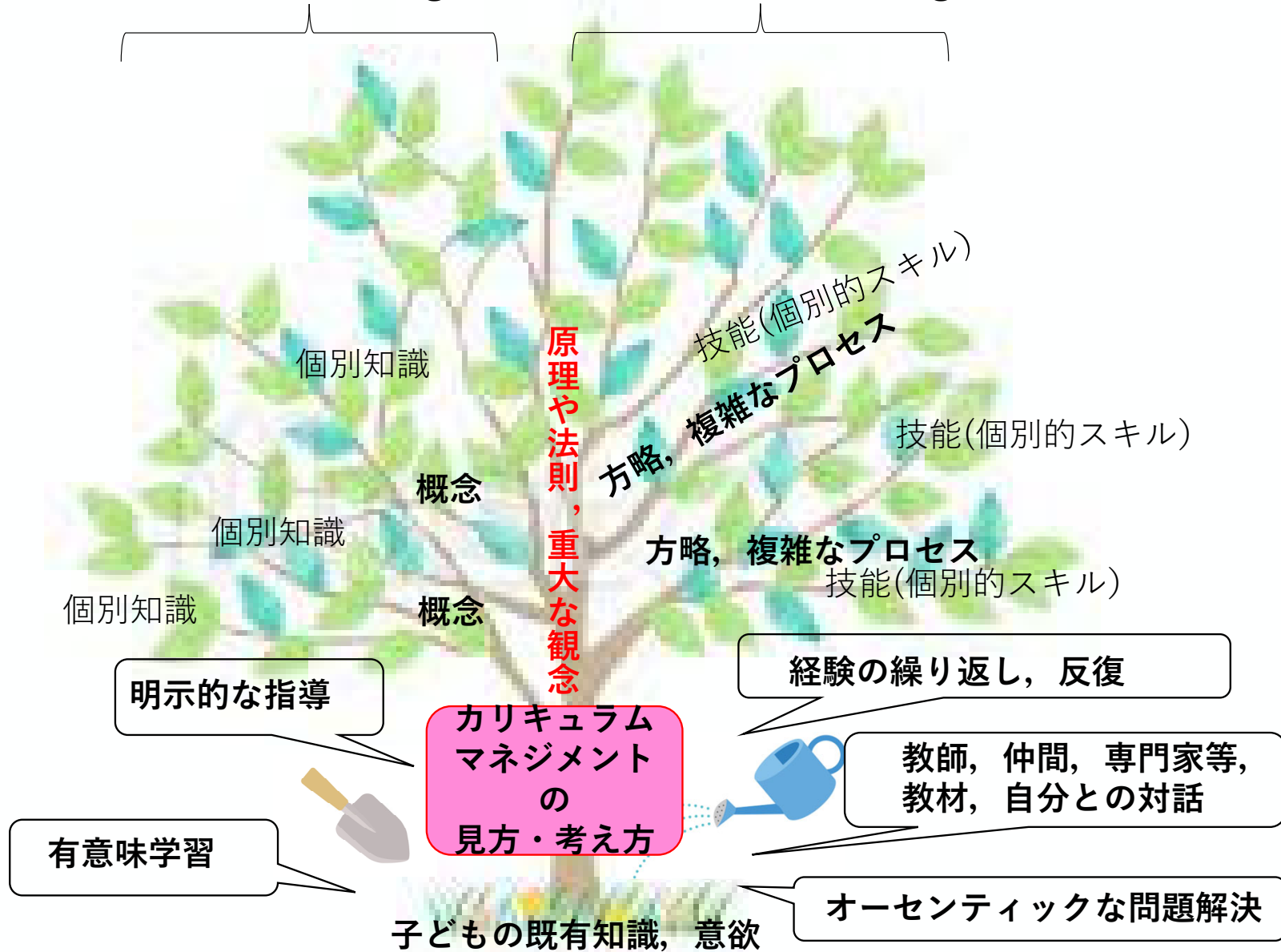


図 8-1 各教科等の知の樹を育む主体的・対話的で深い学び

宣言的知識(knowing what)

手続き的知識(knowing how)



個別知識

原理や法則, 重大な観念

技能(個別的スキル)

方略, 複雑なプロセス

技能(個別的スキル)

概念

方略, 複雑なプロセス
技能(個別的スキル)

個別知識

概念

個別知識

明示的な指導

カリキュラム
マネジメント
の
見方・考え方

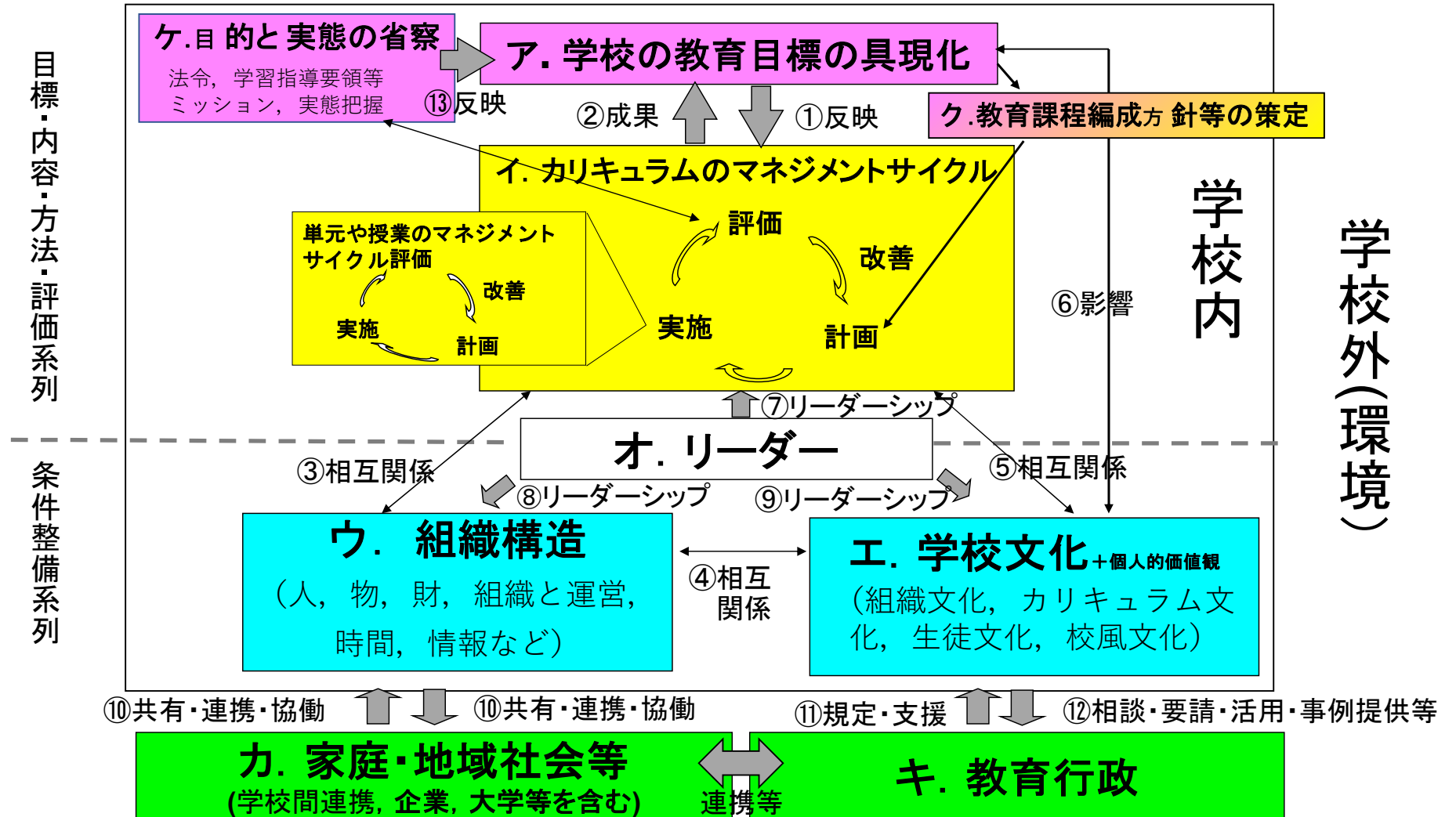
経験の繰り返し, 反復

教師, 仲間, 専門家等,
教材, 自分との対話

有意義学習

オーセンティックな問題解決

子どもの既有知識, 意欲



省察の三段階（技術的省察，実践的省察，批判的省察） [VanManen1977, 1991](#)

省察：事前，行為中，事後に行いうる，教師の重要な専門性

- **技術的省察**：手段の選択に焦点があり，経験的に有効とされた原則やテクニックを合理的にカリキュラムに適用する。
- **実践的省察**：手段だけでなく目的をも検証する。個人的あるいは文化的な経験や意味，認識，仮定などを分析・参照して，カリキュラムと教授－学習の実践を方向づける。教育経験の本質や特質，実践的な選択について解釈することに重点がある。
- **批判的省察**：教育目標や知識の価値，経験そのものについて，背後にある社会的制約（例えば，支配や制度，権威など）に遡って，その意義や意味を熟考する。その理想は，価値ある教育目的の追求である。



目次

まえがき

序 章 カリキュラムマネジメントの目方・考え方

【第Ⅰ部 カリキュラムマネジメントの思想】

第1章 **カリキュラムを疑う**

第2章 **カリキュラム開発**における教師の専門性

第3章 カリキュラムマネジメントの概念

第4章 カリキュラムマネジメント・モデルの意義と構造

批判的省察

【第Ⅱ部 カリキュラムマネジメントの実践】

第5章 各学校の教育目標と教育課程編成の基本方針—共創するヴィジョン

第6章 評価を核としたマネジメントサイクル

第7章 カリキュラムマネジメントにおける評価の実践

第8章 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

第9章 教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実施

第10章 主体的・対話的で深い学びと教科横断的な学びの実践 <事例>

第11章 社会に開かれた教育課程

第12章 「社会に開かれた教育課程」への挑戦 <事例>

第13章 組織構造と学校文化

第14章 教育行政の役割と学校からのアプローチ

第15章 カリキュラムマネジメントへの子どもの参加

第16章 **GIGA**スクール時代のカリキュラムマネジメント

終 章 図と地の逆転

あとがき

参考文献

索引



目次

まえがき

序章 カリキュラムマネジメントの見方・考え方

【第Ⅰ部 カリキュラムマネジメントの思想】

第1章 カリキュラムを疑う

第2章 カリキュラム開発における教師の専門性

第3章 カリキュラムマネジメントの概念

第4章 カリキュラムマネジメント・モデルの意義と構造

【第Ⅱ部 カリキュラムマネジメントの実践】

第5章 各学校の教育目標と教育課程編成の基本方針—共創するヴィジョン

第6章 評価を核としたマネジメントサイクル

第7章 カリキュラムマネジメントにおける評価の実践

第8章 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

第9章 教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実施

第10章 主体的・対話的で深い学びと教科横断的な学びの実践 <事例>

第11章 社会に開かれた教育課程

第12章 「社会に開かれた教育課程」への挑戦 <事例>

第13章 組織構造と学校文化

第14章 教育行政の役割と学校からのアプローチ

第15章 カリキュラムマネジメントへの子どもの参加

第16章 GIGAスクール時代のカリキュラムマネジメント

終章 図と地の逆転

あとがき

参考文献

索引



第II部 実践



第15章 子どもの参加
第16章 GIGAスクール

全体を通して



第5章

ケ. 目的と実態の省察

法令, 学習指導要領等
ミッション, 実態把握

⑬反映

ア. 学校の教育目標の具現化

②成果

①反映

ク. 教育課程編成方針等の策定

第6章

~
第10章

イ. カリキュラムのマネジメントサイクル

単元や授業のマネジメント
サイクル評価

実施

改善

計画

評価

改善

実施

計画

⑥影響

学校内

学校外(環境)

第13章

オ. リーダー

③相互関係

⑧リーダーシップ

⑨リーダーシップ

⑤相互関係

ウ. 組織構造

(人, 物, 財, 組織と運営,
時間, 情報など)

④相互
関係

エ. 学校文化 + 個人的価値観

(組織文化, カリキュラム文
化, 生徒文化, 校風文化)

⑩共有・連携・協働

⑩共有・連携・協働

⑪規定・支援

⑫相談・要請・活用・事例提供等

第11/12章

カ. 家庭・地域社会等

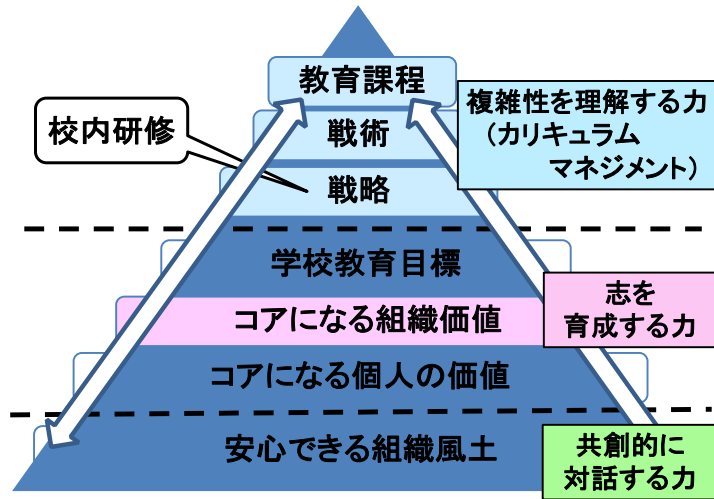
(学校間連携, 企業, 大学等を含む)

⑬等

キ. 教育行政

第14章

【事例：京都市立葵小学校】



京都市立葵小学校 市村校長作成

資料提供京都市立葵小学校

令和2年度 ☆人間関係力 あおいG I i d ☆

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
自分を適切に評価する力			
課題設定	・自分のしたいことを選んでいる。	・友達や先生と協力して、最も良い課題を選んでいる。	・自分で適切に課題を設定している。
学習計画	・課題を解決するため意見を出している。	・これまでの経験や知識から、課題について予想し、解決するための道筋を考えている。	・課題解決に向けて、計画を修正しながら取り組みを進めている。
振り返り	・何を学んで何ができるようになったかわかる。	・身に付けた力どうしのつながりに気付いている。	・つなげた力をどこでどのように発揮するが考え、実践しようとしている。
相手に共感し、お互いの自分らしさを認め合う力			
考えの違い	・違う意見や考えがあることを知り、考えが違ってもいいことを理解している。	・相手の話を受け止めて、自分の考えをもつことができる。	・安心して考えを出し合う中で、自分と違う考えを受け止め考えを再構築する。
関わり合い	・友達の良いところを見つけている。	・見つけた良さをみんなと共有している。	・他者のために自分の力を発揮する。

人間関係力 あおいグリッド

「ごんぎつね」をする前

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
自分を適切に評価する力 学習計画	課題を解決するため意見を出している。	これまでの経験や知識から、課題について予想し、解決するための道筋を考えている。	課題解決に向けて、計画を修正しながら取り組みを進めている。
相手に共感し、おたがいの自分らしさを認め合う力 考えのちがいを	ちがう意見や考えがあることを知り、考えがちがっていることを理解している。	相手の話を受け止めて、自分の考えをもつことができる。	安心して考えを出し合う中で、自分とちがう考えを受け止める考えを再構築する。
対話しながら試行錯誤し、新たな価値を生み出す力 聴く	・より良い聞き方を考えている。 ・友達の思いや意見を否定せず聞いている。	・人の話を共感的に聞いている。 ・友達の意見をもっと聞きたいと考えている。	・多様な価値を認めている。 ・相手の思いを受け止めている。

「ごんぎつね」をした後

	ステップ1
自分を適切に評価する力 学習計画	課題を解決するため意見を出している。
相手に共感し、おたがいの自分らしさを認め合う力 考えのちがいを	ちがう意見や考えがあることを知り、考えがちがっていることを理解している。
対話しながら試行錯誤し、新たな価値を生み出す力 聴く	・より良い聞き方を考えている。 ・友達の思いや意見を否定せず聞いている。

理由

課題を解決するための意見を出したいけど全体の話し合いで相手の話を受け止めて自分から出す。より良い聞き方を考えているけどいなかったが、これはつけ

「ごんぎつね」ふりかえり

ステップ1	ステップ2	ステップ3
課題を解決するため意見を出している。	これまでの経験や知識から、課題について予想し、解決するための道筋を考えている。	課題解決に向けて、計画を修正しながら取り組みを進めている。
ちがう意見や考えがあることを知り、考えがちがっていることを理解している。	相手の話を受け止めて、自分の考えをもつことができる。	安心して考えを出し合う中で、自分とちがう考えを受け止める考えを再構築する。
・より良い聞き方を考えている。 ・友達の思いや意見を否定せず聞いている。	・人の話を共感的に聞いている。 ・友達の意見をもっと聞きたいと考えている。	・多様な価値を認めている。 ・相手の思いを受け止めている。

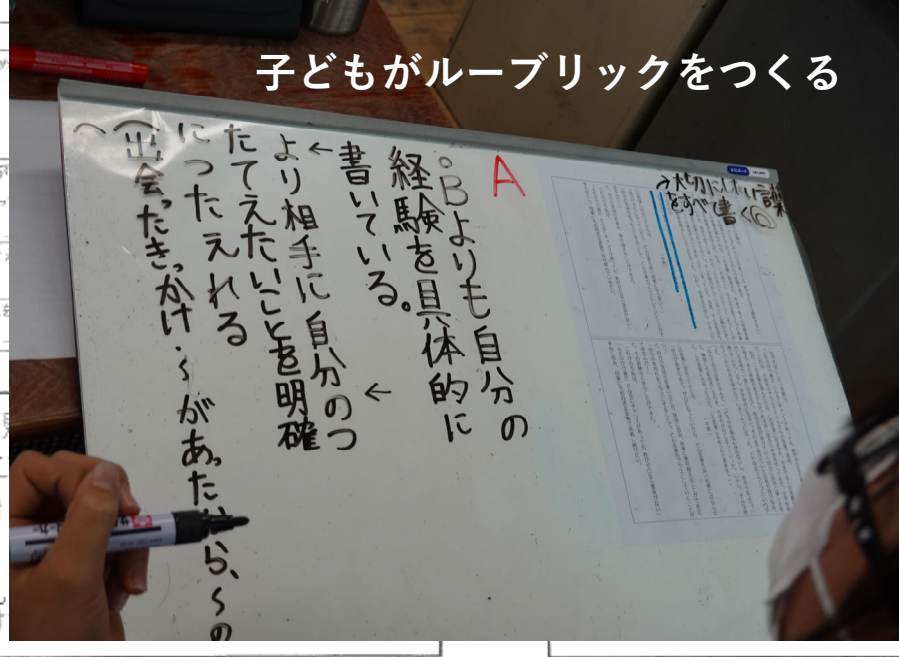
ルーブリック

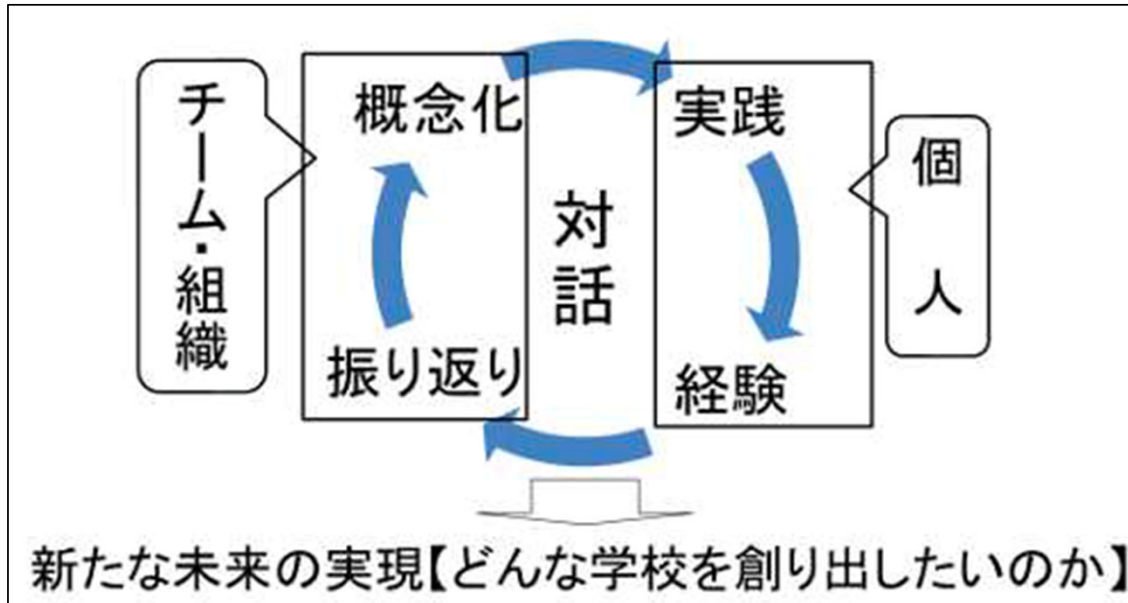
S
Sは登場人物の話し合いのしめくちを読み取ることが出来るは出来ます。たけむそのほごんぎつねが、たのびたいです。

単元を通してのふりかえり

クラスで話し合いをした。リレー

子どもがグループブリックをつくる





対話型マネジメントサイクル (京都市立葵小学校)

SECIモデル

野中郁次郎・竹内弘高

PDCAサイクル

→CAPD

RV-PDCA

CAP-Do

DCAP

OODA ループ

ボイド(Boyd, J.)

AARサイクル

OECD Education 2030

ダブル・ループ学習

Argyris, Senge...

評価計画に従った評価
蓄積した評価データの活用
“子どもの姿”を語り合う
「目標にとらわれない評価」も

評価の過程で改善策を立案
次年度の計画の土台とする
日頃の情報収集, 他校の実践も参考

政治, 経済, 社会, 学術等
子ども・学校・地域の実態

評価規準・基準を意識した授業
形成的評価を生かした指導
評価データの蓄積
授業研究による検証と開発
子どもによる評価

長期スパン の実践的省察

C
Check &
Evaluation

R
Reflection

批判的省察

A
Action &
Improvement

A Action
実践中の省
察と開発

短期スパン の実践的省察

P
Plan

Do &
Development

D
Design

R Reflection

形成的評価
単元計画の修正と記録

評価規準・基準の作成
評価方法・評価時期の設定
評価データ蓄積の方法の設定
指導要録・通知表の方針決定

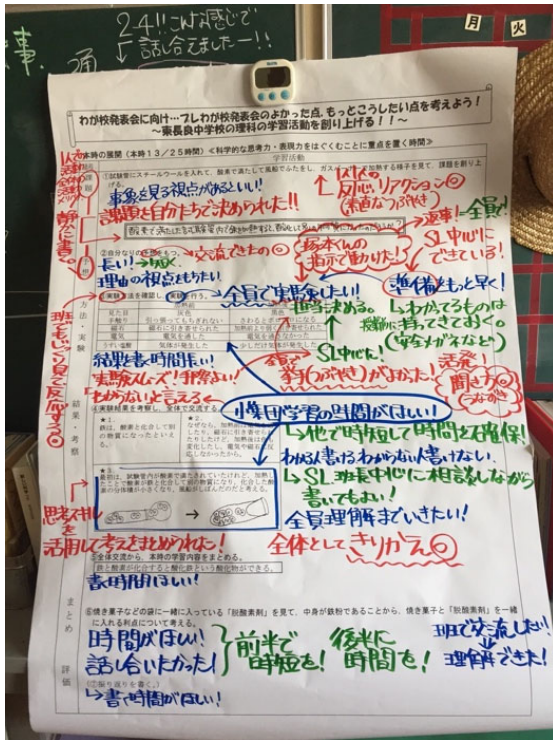
V
Vision

シングル・ループ学習

ダブル・ループ学習

第15章 子どもの参加

中学生が行う授業研究、学習計画書作成の事例



まとめの学習企画書「理科」
2年4組(TK)

学級として学習目標達成のために目指す姿

①全員が話し合いに参加する小集団学習 ②声やうなずきでできる温かい反応
③2秒拍手 ④具体的なつづきの手

学級としてこの教科で目指す姿

①全員が理解できる小集団学習 ②仲間を大切にできる反応
③話し合いの姿勢(2秒拍手・2秒静か・つづきの手)

個人として目指す姿

①理科の学習の楽しさを把握し、予想の場面、実験中、交流の場面など、それら各の場面で呼びかけをする。②SLを軸に、活動内容を確認する。

()月(20)日(水)曜日()時間目

時間	活動内容	係、部活の動き
朝の会後	OSL会、*SL=サイエンスリーダー ・小集団学習の場面の進行について(予想・考案)	OSLを軸に学習活動の 流れを話す。(TK)
8:50	OSL実験道具準備 ・安全が本・ホワイトボード・ホワイトボードペン	OSLに準備の指示を出す。 (TK)
8:55	あいさつ	○課題(めあて)を詳しく 言う。(TK)
8:56	○課題作り → 解かずに課題を書く!	
8:57	○予想(個人で考える) → 自分の考えをしっかりと持つ!	
9:00	○予想(小集団) → ホワイトボードに書く! ①	
9:05	SLを中心にする。OSLは話し合いの場である!	○呼びかけの呼びかけを する。(理科部担任)
9:10	○予想全体交流(②④)と意識	○実験時間の設定 (TK)
9:20	○実験 ・1人1人が役割を持ち動く。・全員参加・スムーズ!	○呼びかけの呼びかけを する。(理科部担任)
9:25	○結果交流 ・全員発言 ②④⑤意識	
9:32	○考案を書く! ・個人に静かに書く!	
9:38	○小集団学習 ④⑤意識 ○考案全体交流 ④⑤⑥を意識する。	○呼びかけの呼びかけを する。(理科部担任)
9:45	まとめ ・考案がうまくいっている。 ・結果をまとめる!	○呼びかけの呼びかけを する。(理科部担任)
9:55	○あいさつ → あいさつを忘れずに!!	○お疲れを詳しく言う。(TK)

新型コロナウイルス感染症 第一波、第二波の影響下、

オンライン学習や 修学旅行を先生と一緒に考え 提案していった中学生 (鈴木大介先生の実践)

理論的には
student voice
参画のはしご (ロジャー・ハート)
正統的周辺参加論 (レイヴ&ウェンガー)
生徒エージェンシー、共同エージェンシー
などで説明しています

第15章 子どもの参加

中学生が作成した「学びのキャッチフレーズ」 （福岡教育大学附属小倉中学校）

1学年「攻めの学び」

…その理由は、横断学習、総合的な学習の時間は、自分たちでどれが課題なのか、それを自分たちで調べたりして、どんどん近づいていくってことを僕たちは思っていたので…

2学年「みんなではめる北九州のパズルのピース」

…みんなというのは、先生や生徒、そしてプロジェクト

に関わってくださった市役所の人や企業の人たち全員がそれに関わっている…パズルっていうのは、生徒全員が考えた、その考えや対話型論証モデルなどのツール、そして、先生が示してくれた方針とか教科…全員で考えて教科1つ1つがパズルのピースとなって、それをみんなではめていくっていうのが、この教科横断学習のテーマになっているんじゃないかな…

3学年「学びを超えて、小倉を超えて未来を見据え、世界へ届け」

…（作成中の）チャリティーブックのように、その既習の学びを超えた教科書にはない学びが重要となってきた、その中では小倉を超えてっていうような今の地元だけでは収まらないような学びが存在します。そんな学びっていうのは未来を見据えた学びで、**答えのない未来に挑戦していくための未来を見据えた学び**だと思います。そういう学びをしていくと世界へ届く、僕たちが世界に出て行ったときに活躍できる、そんな存在になると思います。

目次 まえがき

序章 カリキュラムマネジメントの見方・考え方

【第Ⅰ部 カリキュラムマネジメントの思想】

第1章 カリキュラムを疑う

第2章 カリキュラム開発における教師の専門性

第3章 カリキュラムマネジメントの概念

第4章 カリキュラムマネジメント・モデルの意義と構造

【第Ⅱ部 カリキュラムマネジメントの実践】

第5章 各学校の教育目標と教育課程編成の基本方針—共創するヴィジョン

第6章 評価を核としたマネジメントサイクル

第7章 カリキュラムマネジメントにおける評価の実践

第8章 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

第9章 教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実施

第10章 主体的・対話的で深い学びと教科横断的な学びの実践 <事例>

第11章 社会に開かれた教育課程

第12章 「社会に開かれた教育課程」への挑戦 <事例>

第13章 組織構造と学校文化

第14章 教育行政の役割と学校からのアプローチ

第15章 カリキュラムマネジメントへの子どもの参加

第16章 GIGAスクール時代のカリキュラムマネジメント

終章 図と地の逆転

あとがき

参考文献

索引

